

# 明日の地域づくり委員会における 意見の概要



－( 1 ) 明日の地域づくり委員会  
県北地域



## 明日の地域づくり委員会

### 1 県北地域

#### (1) 総合計画全体に関する意見

- 縦割り行政から脱却し、縦横それぞれが連携して県民に目を向けた政策を計画すべき。
- 高齢化率をはじめ県内の南北地域は様々な方面で格差が大きいので、その解消に力を入れてほしい。
- 教育、医療・福祉など地域格差が生じてはならない内容に格差が生じている。それらを解消する取り組みを望む。

#### (2) 施策に関する意見

##### 第1章 活力あるいばらきづくり

##### 第3項 新鮮・安全で多様なニーズにこたえられたる農林水産物の産地づくり

###### 第1節 農業生産を支える基盤の確立

- 耕作放棄地が多いので、地域ごとの特性を考慮した対応を望む。
- 耕作放棄地の増加だけでなく、農業に接したことがない人が増えていることにも目を向けた方がよい。特に団塊世代以降は、その数が多い。
- 農地を必要とする人がしっかり農地を利用できるような制度をつくれば、耕作放棄地は減る。

##### 第5項 人・もの・情報が活発に行きかう交流空間づくり

###### 第2節 つくばエクスプレスなど広域的な公共交通機関の充実

- インフラ整備の計画が立った時から長い年月が経っても整備の進んでいないところがある。整備については複数の場所を同時に手掛けるのではなく、1ヶ所ずつ確実に完成していったほしい。

###### 第4節 百里飛行場の早期開港と利活用の促進

- 空港や海港の開発を行うのであれば、その活用方法をしっかりと考えたうえで開発する必要がある、無計画な開発は止めるべきである。
- 茨城空港の運行ダイヤについては、現地滞在時間が多く取れるように調整すべきであり、利用者の利便性を考えてほしい。
- 茨城空港の運行予定便を見る限り、皆が本当に空港を求めているのか疑問。
- 茨城空港は今後の維持コストを考慮すると、場合によっては廃港も視野に入れた方がよい。

###### 第5節 地域資源を活かした拠点づくりと交流の推進

- 宿泊施設にするなど廃校舎の上手な活用法を考えてほしい。
- 地域が活性化するような廃校舎の活用法を考えてほしい。

###### 第6節 魅力ある観光の推進

- 茨城空港を利用する他県民に、県内各地を観光してもらおう対策を考えていくべき。

## 第6項 いばらきブランドの確立

### 第2節 “いばらき”の情報発信力の強化

- 茨城県にローカルテレビ局を開局し、県の情報発信を考えてはどうか。
- 県が今おかれている現状を広く県民に知らせることが重要。
- 県民に県政に関する情報が十分に伝わっていない。
- 茨城県はたくさん良い所があるがPR不足。

## 第2章 住みよいいばらきづくり

### 第1項 安心な暮らしを支える保健・福祉・医療の充実

#### 第1節 社会全体で取り組む少子化対策の推進

- 女性の雇用環境が十分に整っていないことが、少子化につながっている。出産後の雇用も保障する体制づくりをしっかりと行ってほしい。
- 専業主婦である特典がない。特典があれば、結婚や仕事を止めて子育てに目を向ける女性が増え、さらに再就職する時の体制を整えれば少子化対策につながると思う。
- 少子高齢化という人口構成の変化について、国レベルでも色々と対策がとられているが、県レベルでも地域特性を考慮した独自の対策を打ち出してほしい。
- 十分な保育所数を確保し、待機児童がいないようにしてほしい。
- 産婦人科を中心とした医師不足について、早急な対応を望む。
- 家庭での教育力が低下している。子どもが生まれる前から、親になる人への教育をしっかりとしていく必要がある。
- 子育てや高齢者に優しい茨城県として、他県にPRできるくらいになってほしい。そうすれば、人口流入にもつながり活気ある県になると思う。

#### 第2節 高齢者がいきいきと暮らせる社会づくり

- 独居老人が増えている。
- 経験豊かな高齢者の有効的な活用法を考えるべき。
- 高齢者の健康維持に対する取り組みに力を入れてほしい。
- 高齢者が心身共に元気に過ごせる社会を築いてほしい。
- 高齢者が地域で上手く活躍できるような取り組みを検討すべき。
- 老老介護の増加が気になる。それらの人たちの手助けとして、高齢者を対象とした施設や体制を充実してほしい。
- 高齢者の引きこもりに対応できる人を養成してほしい。
- 高齢者の医療・福祉施設の整備をしっかりと行ってほしい。
- 廃校舎の有効活用法として、高齢者用の医療・福祉施設としての利用を検討してほしい。  
過疎地には広い土地もあり、経験豊富な高齢者もいるので、それらもあわせて活用していくことも検討してほしい。
- 高齢者人口・世帯が増加していることに対応して、それらの人を対象とした施設の充実や体制基盤の整備をしっかりと行ってほしい。

- 将来は高齢者の増加とあわせて認知症の方の数も増えていくので、それに対する体制基盤の整備も考えてほしい。

### 第3節 障害者の自立と社会参加の促進

- 知的障害者に十分配慮した対応を望む。
- 知的問題を抱える子どもを対象とした施設以外にも、情緒面に問題のある子どもを対象とした施設の整備も必要である。十分な人員、施設数の確保を望む。

### 第6節 安心して医療を受けられる体制の整備

- 県内各病院に最先端の医療技術が導入してほしい。
- 医師・看護師の数を増やして、手厚い医療を受けられるようにしてほしい。
- 救急医療の基盤整備をしっかりとしてほしい。

## 第2項 平穏で安全に暮らせる社会づくり

### 第5節 防災体制の確立

- これまで大きな災害に見舞われたこともなく、地域のつながりは希薄となっている。万が一、災害が発生した時にどうなるか心配。
- 防災訓練のやり方を見直し、子どもから年寄りまで地域住民がしっかり参加するような内容にしていってほしい。

## 第3項 環境への負荷の少ない持続可能な社会づくり

### 第5節 多様な自然の保全と活用

- 自然を壊さないで子どもたちが心豊かになる社会を築いてほしい。

## 第4項 快適で質の高い生活環境づくり

### 第2節 生活を支える交通環境の充実

- 公共交通の運行路線が廃線し、県民の足がなくなりつつある。空港に関する話をする前に、まずは県民の足を確保するための対策を考えることが大切。

## 第5項 地域社会活動の推進と世界に開かれた社会づくり

### 第1節 自主的・主体的な地域社会活動の推進

- 廃校舎や、その地域の高齢者、さらには NPO やボランティアを上手く活用した取り組みをしてほしい。
- 団塊の世代が新規に地域コミュニティの組織に入っていない。
- 市町村ごとのボランティアの取り組み度合の差は、県が上手く調整してほしい。
- 地域のつながりを上手く構築できていない。
- 地域ボランティアを上手く活用してほしい。
- ボランティアについて、行政は「やらせる側」とボランティア従事者は「やる側」という隔たりを感じる。官民一体となって共同で取り組んでいく体制を整えてほしい。

### 第3章 人が輝くいばらきづくり

#### 第1項 未来を担う人づくり

##### 第2節 学力の向上と個性を伸ばす教育の推進

- 子どもの育成について、決められたことはできても、そこから一歩踏み出して自ら考えて行動する子どもが減ってきている。決められたこと以外のこともできる子どもの育成に力を入れるべき。

##### 第3節 豊かな心と健康や体力をはぐくむ教育の推進

- 学校教育に郷土愛が深まる内容を導入してほしい。
- 子どもから大人まですべてを含め、モラルの低下が著しい。小学校の低学年から道徳教育を実施してモラルの向上に努めてほしい。
- 学校に心理カウンセラーを常駐させるなどして、教育現場に心の豊かさが生まれる環境づくりが必要。
- 学校教育に伝統文化に関する内容を盛り込むべき。

##### 第4節 県民に信頼される魅力ある学校づくり

- 教員免許を持っている人がボランティアで、学校へ行けない子どもに対して学習支援する体制をつくってほしい。
- 注意欠陥・多動性障害のように特別な支援を必要とする児童数が増えてきていることを受け、そのような児童へ対応する教員数を増やすなどの対応方法を県の方で考えてほしい。

#### 第4項 学習環境の充実と文化・スポーツの振興

##### 第2節 文化芸術活動の推進と地域文化の発掘・発信

- 高齢者から古き良き伝統を学び、しっかりと受け継がれるようにしてほしい。



－(2) 明日の地域づくり委員会  
県央地域



## 2 県央地域

### (1) 総合計画全体に関する意見

- 絵に描いた餅にならないように、目標数値がしっかりと達成する計画立案を望む。
- 計画を立案する際は、現在実施している計画のなかで目標未達成の部分を優先的に盛り込み、バランスのとれた内容の計画にすべき。
- 全国的にみて茨城県は様々な面で恵まれている県だと思うので、それを維持していくことを念頭においてほしい。
- 全国的にみて遅れをとっている①医療・福祉関係、②県に対するイメージ、③農業の担い手といった問題への対策に重点をおくべき。  
25年先はどういう社会になっているのか想定したうえで、5ヶ年計画を立てる必要があり、これまでの計画を延長するのは止めてほしい。
- 予算が限られていることを考えると、現状の8点の目標は多すぎる。2点ほどに減らし、大きな目標（例：アジアの農業リーダーになる）を掲げた方がよい。
- これまで実施した計画に対する結果を重視すべきであり、新たに計画を立てることにとらわれないでほしい。  
25年先は厳しい社会になると考えた方が良く、それを考慮したうえで新計画を立てるべき。
- 県民に十分理解が得られる計画を望む。
- 県政の方向性をしっかり見定めた計画にしてほしい。
- 地域特性を良く理解して、県北山間地域をはじめ県全体が隔たりなく発展していけるような計画を立ててほしい。  
計画の数値目標にとらわれないでほしい。
- 縦割り行政から脱却して、柔軟な対応がとれるような計画にしてほしい。
- 県のみで考える時代ではない。もっと広い視野に立ち、医療、公共交通をはじめ、もっと他県との連携を図ってほしい。

### (2) 施策に関する意見

#### 第1章 活力あるいばらきづくり

#### 第2項 競争力ある商工業の育成と企業立地の促進

#### 第2節 ものづくり産業の育成

- 茨城県固有の産業を掘り起こし、その発展に力を入れるべきである。

#### 第3節 ベンチャー企業の育成と新たな事業展開への支援

- コミュニティビジネスへの後押しとして、資金援助や情報提供に力を入れてほしい。

#### 第4節 地場産業・特産品の育成

- 地場産業がさらに発展していく計画にしてほしい。

### 第3項 新鮮・安全で多様なニーズに応えられる農林水産物の産地づくり

#### 第1節 農業生産を支える基盤の確立

- 農業分野の耕作放棄地や担い手不足に対して、県が色々と対策をとっていることは理解しているが、多くの県民に納得してもらうための広報が不足している。
- 耕作放棄地を利活用して、まちの活性化につなげてほしい。

### 第4項 産業を支える人材の育成と就業の促進

#### 第1節 産業を支える人材の育成

- 農業だけで生計が立てられる体制を確立して、若者が農業に従事できる環境を整えてほしい。

#### 第2節 雇用・就業環境の整備

- 雇用の創出が大切なので、今後も力を入れてほしい。
- 雇用の促進に力を入れてほしい。
- 雇用が安定する計画を考えてほしい。
- 農業県であることを活かした雇用創出を考え、そこから県全体の発展に波及していくことを考えるべきである。

### 第5項 人・もの・情報が活発に行きかう交流空間づくり

#### 第1節 広域的な幹線道路の整備

- 道路が混み、目的地に到着するまでの時間が、予想以上にかかる。その対応として、高速道路の整備が進んでいるが、そこにアクセスするまでの一般道路が混むので、さらなる対応をお願いしたい。
- 高速道路を整備していくうえでは、その周辺に住む人、あるいは店を営む人に悪影響を及ぼさないことも大切。

#### 第2節 つくばエクスプレスなど広域的な公共交通機関の充実

- つくばエクスプレスを茨城空港や水戸まで延伸してほしい。

#### 第3節 安全で使いやすい港づくり

- 海港を利用した広域ネットワークを考え、物流拠点となれるような対策が必要。

#### 第4節 百里飛行場の早期開港と利活用の促進

- 空港の利活用について十分に議論してほしい。
- 赤字が見込まれる茨城空港の活用法を考えると、空港を利用した修学旅行を学校側に実施してもらう取り組みを検討すべき。
- 空港の利用について、県がどのように考え、さらにその周辺地域もどのように考えているのか不明確。

#### 第5節 地域資源を活かした拠点づくりと交流の推進

- 東京に近いという首都圏機能をさらに高めていく必要がある。

#### 第6節 魅力ある観光の推進

- 県の保有する資源を観光資源化し、各市町村で誇れるものを確立していく

ことが大切。そして、利用者側である県民から観光資源としてそれらを有効的に活用していくための意見を上手く抽出してほしい。

#### 第8節 ITを活用した交流空間づくり

IT関係は全国的にみて遅れているので、力を入れて取り組んでほしい。

### 第6項 いばらきブランドの確立

#### 第1節 地域資源のブランド化

○数量だけにとらわれず、高品質な農作物を生産し、農産物のブランド化に取り組んでほしい。

#### 第2節 “いばらき”の情報発信力の強化

- 魅力がない県に思われているのは、PRが不足しているためだと思う。
- 計画内容について県民の末端まで伝わっていない。

## 第2章 住みよいいばらきづくり

### 第1項 安心な暮らしを支える保健・福祉・医療の充実

#### 第1節 社会全体で取り組む少子化対策の推進

- 母親が孤立して、1人で子育てについて不安を抱いている人がいる。これは、出産人数の減少が原因で、幼児虐待といった問題にも発展していく可能性が高いので、小学生の時点から段階から子どもと触れ合う教育を取り入れ、将来自分が親になった時に悩みが軽減されるようにしてほしい。
- 少子化は県のみならず国力にも関わる問題なので、その対策はしっかり取るべき。
- 子育て支援に関して力を入れてほしい。
- 待機児童がなくなるように、しっかりとした取り組みをしてほしい。

#### 第2節 高齢者がいきいきと暮らせる社会づくり

- 今後、高齢化がさらに進展していくことを考えると、県民に対して寝たきりや、認知症にならないための情報提供を積極的にしてほしい。

#### 第6節 安心して医療を受けられる体制の整備

- 医師の数をはじめ医療・福祉について、市町村によって偏りがないようにしてほしい。
- 地域バランスのとれた医師・看護師の数にすべきで、身近に充実した医療環境があることを望む。

### 第3項 環境への負荷の少ない持続可能な社会づくり

#### 第1節 地球温暖化防止など地球環境の保全

- ライフスタイルの見直しを意識させ、車社会から脱却する取り組みがあっても良い。

#### 第2節 生活に身近な地域の環境の保全

- 環境への取り組みとして、家庭での取り組みについての情報提供が不足している。

- 環境・地域保全を考慮した県づくりを考えてほしい。
- 家庭単位で取り組むことのできる環境対策にも力を入れ、その情報を提供してほしい。

### 第3節 霞ヶ浦をはじめとする湖沼環境の保全

- 森林湖沼環境税に対する県民の認知度を向上させるように、広報活動の仕方を見直してほしい。

### 第4節 資源循環と廃棄物適正処理の推進

- 不法投棄への対策として、住民や警察とのネットワーク化を進めていく必要がある。

## 第4項 快適で質の高い生活環境づくり

### 第1節 美しくやさしさのあるまちづくり

- 商店街に活気がない。地域活性化に関する情報提供（地域のコミュニティエリアなど）に力を入れてほしい。

### 第2節 生活を支える交通環境の充実

- コミュニティバスの運行路線を拡充してほしい。

## 第5項 地域社会活動の推進と世界に開かれた社会づくり

### 第1節 自主的・主体的な地域社会活動の推進

- 有効に県民の力を活用できるネットワークづくりを県はすべきである。
- ボランティアに関する事業の予算を増やしてほしい。

## 第3章 人が輝くいばらきづくり

### 第1項 未来を担う人づくり

#### 第1節 社会全体での教育への取組

- 人材育成は大切なので、教育内容を充実してほしい。

#### 第2節 学力の向上と個性を伸ばす教育の推進

- 児童教育には十分な予算措置を望む。

#### 第3節 豊かな心と健康や体力をはぐくむ教育の推進

- 学校教育のなかに農業に関する教育を盛り込んだ方が良い。

#### 第4節 県民に信頼される魅力ある学校づくり

- 教育レベル（生徒、先生ともに）に地域間格差がみられるので、レベル向上に努めてほしい。

## 第3項 個性や能力を伸ばす機会の充実と社会参画の促進

### 第1節 青少年の自立と社会参加への支援

- ボランティアに対する意識をより一層高める必要があり、新たにボランティア活動をする人材が増えるような対策を望む。

#### 第4項 学習環境の充実と文化・スポーツの振興

##### 第1節 生涯学習を支援する学びの環境の充実と活用

- 図書館のない市町村があるので、新たに図書館をつくるか、近隣施設までの公共交通の確保に努めるべきである。
- 水戸検定に見習って茨城検定を設け、県に関して十分理解できるような取り組みをしてほしい。





－(3) 明日の地域づくり委員会  
鹿行地域



### 3 鹿行地域

#### (1) 総合計画全体に関する意見

○計画を立てる際に扱う数値の根拠を明確に示すべき。

#### (2) 施策に関する意見

##### 第1章 活力あるいばらきづくり

##### 第1項 科学技術を活かした先端産業の育成

###### 第1節 研究開発と産業利用の推進

○日本は技術立国でもあるので、技術を発展させていくために、十分な予算措置をすべきである。

###### 第2節 科学技術を支える社会づくり

○規制緩和をして、民間活力を上手く活用できる体制づくりを望む。

○工業地帯への企業の誘致に力を入れてほしい。

##### 第3項 新鮮・安全で多様なニーズに応えられる農林水産物の産地づくり

###### 第1節 農業生産を支える基盤の確立

○現在の農業生産額を維持していく方法として、農業法人化を推進してほしい。  
農家数は減るが組織単位の売上げは向上するので、結果的に農業生産額の維持につながると思う。

○農業法人化を進め、耕作放棄地が減る対策を望む。

○耕作放棄地に関する対策をしっかりとしてほしい。

○農業分野について、人材や機械、土地などを共有できるシステムを検討してほしい。

○農家の人を対象とした簿記講座を開講して、営農に必要な知識が学べるようにしてほしい。

###### 第2節 競争力のある産地の育成と販売力の強化

○農産物の値崩れが心配。

###### 第6節 農山漁村の活性化

グリーン・ツーリズムに力を入れ、農を楽しむ活動に積極的に取り組んでほしい。

##### 第4項 産業を支える人材の育成と就業の促進

###### 第1節 産業を支える人材の育成

○農業の後継者問題の改善に力を入れ、就農者に対する支援事業をさらに一歩進めて、都市部の若者を迎えて就農できるサポートシステムを構築展開してほしい。

###### 第2節 雇用・就業環境の整備

○雇用環境を整えてほしい。

###### 第6節 魅力ある観光の推進

○インフラ整備も含め、観光事業に力を入れてほしい。

## 第5項 人・もの・情報が活発に行きかう交流空間づくり

### 第1節 広域的な幹線道路の整備

○道路をはじめインフラ環境が悪い。

### 第3節 安全で使いやすい港づくり

○茨城港の知名度を向上させ、世界視野で機能するようにしてほしい。

### 第4節 百里飛行場の早期開港と利活用の促進

○茨城空港については、空港内のテナントに特色を出すなどして、東北の窓口となる空港になってほしい。

○関西空港のように茨城空港の周辺地域がゴーストタウンにならないように、飛行機の往来のみでなく総合的な展開をすべきである。

## 第6項 いばらきブランドの確立

### 第1節 地域資源のブランド化

○観光客増加の呼び水として各地域が特産品を確立し、特産品フェアを実施するなどして地域の活性化につなげてほしい。またマスコミを利用して茨城県のPRも図ってほしい。

○「魅力のない県 No. 1」になったことに対する自己分析をしっかりとしてほしい。

## 第2章 住みよいいばらきづくり

### 第1項 安心な暮らしを支える保健・福祉・医療の充実

#### 第1節 社会全体で取り組む少子化対策の推進

○子育て支援のさらなる充実を望む。

#### 第2節 高齢者がいきいきと暮らせる社会づくり

○高齢者など、県民の力を上手く活かせていない。官民共同の考えを持ち、民間活力を活かせるシステムの構築を望む。

○高齢者介護施設の職場環境を充実するなどして、十分な施設数を確保してほしい。

○認知症患者への対応が遅れている。地域によってはボランティアの育成をしているところもあるので、先進的な地域を見習ってほしい。

○高齢化の深化にともない、高齢者を対象とした施設を充実してほしい。

#### 第3節 障害者の自立と社会参加の促進

○知的障害者が養護学校を卒業した後の受皿が市町村によって差があるので、格差の是正を望む。

#### 第4節 生涯にわたる健康づくり

○がんの死亡率上昇を考えると、がんの早期発見が大切であり、そのための定期検診におけるガン検査の年齢制限を撤廃すべきである。

○医療費を抑えるため、住民が定期検診を受けることが必要。

○子宮頸ガン患者の数が増加傾向にあり、さらには低年齢化に向かっている。

この病は予防接種によって回避できる可能性が高いので、高校生を対象に予防接種の実施をすべきである。

○子宮頸がんの予防に力を入れてほしい。

#### **第6節 安心して医療を受けられる体制の整備**

○茨城県は全国的にみて、教育、医療・福祉面が弱いと感じる。特に医療関係は、専門医師との信頼関係の構築が大切なので、医師数は当然のこととしてその質の向上もお願いしたい。

○医療・福祉施設を利用するうえで、隣接都市・県に頼らなくても済むように県内施設の整備に力を入れてほしい。

○経済弱者に優しい医療システムを構築してほしい。

○ドクターヘリについて、地域によって隔たりなく利用されることを望む。

○優秀な人材でも金銭的な問題で医師になれない場合がある。そういう人を補助する体制を整え、医師不足の解消につなげてほしい。

○病院内のなかには産婦人科、小児科の設置がないところがあるので、医療内容の充実をお願いしたい。

○医療・福祉関係について、隣接都市の施設を利用しなくても良いように改善してほしい。

### **第2項 平穏で安全に暮らせる社会づくり**

#### **第1節 犯罪に強い地域社会づくり**

治安の向上に努めてほしい。

○警察署のない地域に警察署をつくってほしい。

#### **第7節 県土の保全**

○海岸沿いで防風林が植林されていない場所には、植林されるよう十分な予算措置を望む。

### **第3項 環境への負荷の少ない持続可能な社会づくり**

#### **第3節 霞ヶ浦をはじめとする湖沼環境の保全**

○利根川流域の芦原保全をしっかりと行い、野鳥生息場の環境保護に努めてほしい。

○霞ヶ浦の中に人工島をつくり、そこで浄化を進めることを検討してほしい。

○霞ヶ浦の水質が悪化している。対策の予算を十分確保し、早急に水質浄化の対応をしてほしい。

○水深8メートルあった霞ヶ浦は、現在4メートルになっている。以前の姿に戻るように、今まで以上に力を入れて水質浄化に取り組んでほしい。

○霞ヶ浦の水質浄化のあり方について、みんなで検討すべき。

### **第4項 快適で質の高い生活環境づくり**

### 第1節 美しくやさしさのあるまちづくり

- 病院やインフラの整備をはじめ都市開発を進める際は、地域差がない均整のとれた内容にしてほしい。

### 第2節 生活を支える交通環境の充実

- 車社会の地域では、公共交通の確保をしっかりとしてほしい。
- 公共の交通機関の運行廃止により、移動手段が自家用車主体となっている地域がある。そのような地域では、事故や渋滞が増えるなどの問題が起きているので、公共の交通機関の整備・確保に力を入れて。

### 第3節 上下水道など生活衛生環境の充実

- 野良犬・野良猫が多いので、その対策をしっかりとしてほしい。

## 第5項 地域社会活動の推進と世界に開かれた社会づくり

### 第1節 自主的・主体的な地域社会活動の推進

- ボランティアを上手に活用すべき。
- 高齢者のなかにはボランティア活動を行いたくても何をしたらよいのかわからない人がいる。そういった人が活動に携われるシステムを構築してほしい。

## 第3章 人が輝くいばらきづくり

### 第1項 未来を担う人づくり

#### 第2節 学力の向上と個性を伸ばす教育の推進

- 学校教育のなかで、現在小学校で実施しているような英語教育であれば予算の無駄だと思う。予算のあり方を見直し、その分を英語教員の能力向上に使用すべき。
- 学校教育に新しく医療知識に関する内容を盛り込むことで、受診者数の抑制につながり、医療費の削減にもなる。

#### 第3節 豊かな心と健康や体力をはぐくむ教育の推進

- 子どもの体力低下が気になる。心身ともにバランスのとれた成長ができる教育体制を整えてほしい。
- 道徳マナーが悪化しているので、その向上に努めてほしい。

### 第3項 個性や能力を伸ばす機会の充実と社会参画の促進

#### 第2節 高等教育機関の充実と連携の促進

- 県内の大学に薬学部を設置するとともに、茨城県独自の方向性としてそこでガン専門の薬剤師を育成できる体制を構築してほしい。

### 第4項 学習環境の充実と文化・スポーツの振興

#### 第2節 文化芸術活動の推進と地域文化の発掘・発信

- 茨城県が保有する文化・歴史遺産はたくさんあるのに、その掘り起こしが足りない。
- 一度失われた文化は、なかなか元に戻らないので鹿島鉄道をはじめ文化保護

に努めてほしい。

#### 第4項 学習環境の充実と文化・スポーツの振興

##### 第1節 生涯学習を支援する学びの環境の充実と活用

○定年を迎えた退職者が、余暇時間に何を行えば良いのか相談できる窓口がない。





一(4) 明日の地域づくり委員会  
県南地域



## 4 県南地域

### (1) 総合計画全体に関する意見

- 計画を策定するうえでは、問題に対する裏付けが重要。
- 問題を絞って全員で1つの成功例をつくりあげ、そこで得た経験を他の問題に応用していく方法もある。
- 計画を策定するうえでの指標として、目で見えてわかりやすい数値(全国順位、%など)にとらわれがちだが、普段の生活を充実させていくには数値では簡単に見えてこない生活のしやすさが重要だと感じる。
- 絵に描いた餅にならないように、現実的な計画を考えてほしい。
- 目線を県民レベルまで落とし、県民の声をしっかり聞いて計画してほしい。
- 地域ごとに特性があることを理解して、県は全国順位にこだわらずに計画を立案する必要がある。
- 新たな計画を立案する前に、これまでの計画についての検証をしっかりしてほしい。

### (2) 施策に関する意見

#### 第1章 活力あるいばらきづくり

##### 第1項 科学技術を活かした先端産業の育成

###### 第1節 研究開発と産業利用の推進

- 県が企業に対して行う資金援助は、経営安定のために援助するのではなくて、研究等に努力している企業に対して援助してほしい。
- 企業が大学と連携して研究を進めていくうえで、県は大学教員の専門分野を把握して、企業側にその情報を提供や大学とのつなぎ役をしてほしい。市町村での努力はみられるが、県では不足している。

##### 第2項 競争力ある商工業の育成と企業立地の促進

###### 第1節 産業拠点の競争力向上と企業立地の促進

- 県は各自治体が企業を工業団地へ誘致することについてしっかり指導し、各自治体が無計画な誘致を進めないようにしてほしい。
- 民間の活力を活かした県政を行っていくためには、民間への規制を緩和する必要がある。県は民間へのサポートを充実させ、さらなる連携強化を図ってほしい。

##### 第3項 新鮮・安全で多様なニーズに応えられる農林水産物の産地づくり

###### 第1節 農業生産を支える基盤の確立

- 農業生産額が全国2位になった一方で、耕作放棄地も全国2位になっている。生産額だけにとらわれず、企業と連携するなどして農業のあり方について見直してほしい。
- 農業従事者の大半は70歳以上の高齢者なので、全国2位の農業生産額がい

つまで続くか不安。後継者がいなければ耕作放棄地が増えていく可能性が高いので、その対策を重点的に取り組む必要がある。

## 第5項 人・もの・情報が活発に行きかう交流空間づくり

### 第2節 つくばエクスプレスなど広域的な公共交通機関の充実

○つくばエクスプレスのつくば駅と常磐線の牛久駅をつなぐ鉄道網を整備してほしい。バスも発達はしてきているが、鉄道に比べて定刻時間での運行や輸送力で劣る。

### 第7節 新たな物流体系の構築

○高速道路の整備を中心に茨城空港や茨城港へのインフラを整備することで、物流拠点となるようにしてほしい。そして、県は企業にそれらを利用してもらえるようにPRに力を入れてほしい。

## 第6項 いばらきブランドの確立

### 第1節 地域資源のブランド化

○茨城県出身であることにプライドが持てるような県になってほしい。

### 第2節 “いばらき”の情報発信力の強化

○民間の活力を上手くつかって、茨城県の保有する歴史・文化施設などを積極的にPRし、県民へのサービス向上に努めてほしい。

○様々な問題に対して県の方で取り組みがされていると思うが、その内容が十分県民に伝わっていない。広報の仕方を考えて直し、民間を上手く活用するなどして県民にしっかり浸透するようにすれば、施策成功につながっていくと思う。

○県全体でPRが不足している。PRに力を入れてほしい。

○県はPRが不足あるいは下手だと感じる。広報活動を見直し、茨城県在住・出身ということにプライドが持てるようにしてほしい。

## 第2章 住みよいいばらきづくり

### 第1項 安心な暮らしを支える保健・福祉・医療の充実

#### 第1節 社会全体で取り組む少子化対策の推進

○国・県は色々な少子化対策を講じているが、現場は違った方向での取り組みがされている。大きな目標を立てるのは良いが、この差をうめるために現場は具体的にどう対処したら良いのかわかるようにしなければならない。

○保育所を増やして待機児童数を減らしてほしい。

#### 第2節 高齢者がいきいきと暮らせる社会づくり

○高齢になると若い頃にみていた未来予想図をみることが難しい。高齢になっても明るい未来がみられるような社会にしてほしい。

○高齢化における問題は、市町村という大きな枠組でなく、もっと狭い集落単位でも生じており、なかには過疎地域ではない都市部でも起こっている。社会福祉を市町村レベルで区切って考えるのではなく、行政区あるいは学区

で充実させていくことを考えてほしい。

○若い人は地元の仕事がなく県外へ移居してしまう結果、高齢者世帯が増えて  
いる。人口流出に対する策を考えるのも重要だが、高齢者の声をもっと聞き、  
その方々のための施設を充実していく必要がある。

○若い人が介護ヘルパーの仕事に就いても、低賃金で生活していくことが難し  
く、結果的に辞めていく。そのような人が生活していけるように、国とは別  
に県は独自の対応をする必要がある。

### **第3節 障害者の自立と社会参加の促進**

○色々な場面で障害者のような弱者が参画できるような社会にしてほしい。

### **第4節 生涯にわたる健康づくり**

○自殺者への対策が不足している。心の問題に対して身近に相談できる窓口を  
設けてほしい。

### **第6節 安心して医療を受けられる体制の整備**

○医師・看護師の不足が問題視されているが、これは県内全体ではなく偏在し  
た問題だと思う。県内各地で均整がとれるように改善する必要がある。

○医師・看護師の不足は深刻な問題なので、しっかりとした対応をしてほしい。

## **第3項 環境への負荷の少ない持続可能な社会づくり**

### **第1節 地球温暖化防止など地球環境の保全**

○環境を配慮した車社会からの脱却が、県民レベルまで浸透していない。

## **第4項 快適で質の高い生活環境づくり**

### **第1節 美しくやさしさのあるまちづくり**

○住民目線に合わせた景観づくりをしてほしい。

## **第5項 地域社会活動の推進と世界に開かれた社会づくり**

### **第1節 自主的・主体的な地域社会活動の推進**

○行政と県民との連携・共同について、行政から県民への働きかけが不足して  
おり、その実現が遅れている。行政をはじめ県民の意識改革を早期に行っ  
ていく必要がある。

○高齢層のボランティアについては成就感が得られる場を提供することが大事。

○何かに取り組みたいが、既存の組織に入りたくない人が増えている。地域ご  
とに合った組織作りが重要。

○人材流出しない地域づくりを築き上げるために、人との係わりを持てる組織  
を充実させていくことが重要。

## **第3章 人が輝くいばらきづくり**

### **第1項 未来を担う人づくり**

#### **第1節 社会全体での教育への取組**

○あいさつの実施など、地に足が着いた学校教育をしてほしい。

- 学業面のみに力を入れるのではなく、学校教育のなかに人との係わり合いも学ぶ内容も盛り込んでほしい。
- 両親とのコミュニケーションが不足している。
- 学校と地域住民が連携して、より良い教育を実現してほしい。
- 様々な問題があるが、その対策をすすめるには人を育てることが大事。

### **第3節 豊かな心と健康や体力をはぐくむ教育の推進**

- 薬物について知らずに手を出す子どもがいる。学校教育を改善して、薬物に関する教育に力を入れてほしい。
- 若年層におけるボランティアが増加したのは教育の効果だと思う。これからもボランティアに関する教育に力を入れてほしい。

### **第4節 県民に信頼される魅力ある学校づくり**

- 学校の統廃合によって、学生と地域住民との係わり合いが薄れないようにしてほしい。
- 先生の子どもへの接し方・言葉遣いなどレベルが低下している。教育指導者のあり方を見直してほしい。
- 学校の統廃合は、母校を存続させたい大人の事情で進んでいない気がする。もっと子どものことを考えてほしい。
- 規模の小さい学校では子どもに十分な教育をすることは難しい。子どものことを考えると、学校の統廃合を進めた方がよい。

## **第3項 個性や能力を伸ばす機会の充実と社会参画の促進**

### **第1節 青少年の自立と社会参加への支援**

- ボランティアについては「自分のためにおこなう」という意識が大切だが、現状では「人のためにやっている」という考を持つ人が多い。そのため、ボランティアに対する意識改革を行う必要がある。

－(5) 明日の地域づくり委員会  
県西地域





## 5 県西地域

### (1) 総合計画全体に関する意見

- 新規事業に対して他県に遅れを取らず、仮に道州制が進んだ場合、隣接する茨城県、栃木県からイニシアチブがとれる行政であってほしい。
- 県民まで目線を下げ、末端の意見を拾い上げた計画を作ってほしい。
- 現在進行中の計画では8つの目標が掲げられているが多すぎる。内容を2から3つに減らし、重点的に取り組んだ方が良い。
- 国の方針と茨城県の特性を十分に理解して、茨城県の着地点をしっかりと見定めてほしい。
- これまでの計画の総括を徹底的に行ってほしい。

### (2) 施策に関する意見

#### 第1章 活力あるいばらきづくり

##### 第3項 新鮮・安全で多様なニーズに応えられる農林水産物の産地づくり

###### 第1節 農業生産を支える基盤の確立

- 灌漑整備をきちんとしてほしい。

##### 第5項 人・もの・情報が活発に行きかう交流空間づくり

###### 第1節 広域的な幹線道路の整備

- 一般道から高速道路へのアクセスが悪いので、その整備に力を入れてほしい。
- 未開通の道路については、早期に開通するようにして、高速道路との接続を改善するように、その取り組みには力を入れてほしい。

###### 第4節 百里飛行場の早期開港と利活用の促進

- 茨城空港の開港するにあたり、赤字分を税金で負担することが続くのはやめてほしい。空港の活用法については、しっかりと検討する必要がある。

##### 第6項 いばらきブランドの確立

###### 第2節 “いばらき”の情報発信力の強化

- 人づくりの一貫として、住民1人1人が茨城県の現状を把握し、県が抱えている問題を認識できる体制を整えてほしい。
- 1都6県のなかでローカルテレビ局が開局していないのは茨城県のみ。県内情報を県民に広く伝えるための有効手段として、テレビ局の開局を検討事項に加えてほしい。

#### 第2章 住みよいいばらきづくり

##### 第1項 安心な暮らしを支える保健・福祉・医療の充実

###### 第1節 社会全体で取り組む少子化対策の推進

- 茨城県独自の育児体制を確立してほしい。

###### 第2節 高齢者がいきいきと暮らせる社会づくり

- 高齢者の力を上手く活用して、高齢者層の活性化につなげてほしい。
- 経験豊富なシニア世代を活用した子どもの教育体制を構築してほしい。

### 第3節 障害者の自立と社会参加の促進

- 健康づくりのための取り組みとして、健常者のみならず障害者も気軽にスポーツできるように場の整備、さらに指導者の育成を充実してほしい。
- 障害者への対応が遅れている。
- 障害者のなかでも精神障害のある方への交通費の割引制度に関する整備が遅れている。少なくとも身体障害者と同様のレベルになるようにしてほしい。

### 第6節 安心して医療を受けられる体制の整備

- 医療・福祉体制について地域間格差があるので、行政の方でしっかり対応して均一化してその体制を充実してほしい。
- 医療・福祉関係については、県外施設に依存している感が否めず、特に県境地域ではその傾向が強く長年続いている。  
365日24時間対応の救急医療施設を整備することは当然のことながら、搬送された方の家族のフォローとなる宿泊施設等も併設してほしい。
- 絶対的な医師不足を改善し、さらに各分野の医師数のバランスにも留意してほしい。
- 自治医科大学に対して県も支援していることを考えると、そこから何人の学生が茨城県の医療・福祉関係の施設に就職したかを調べ、より多くの人材が同県に来るようにしてほしい。

## 第3項 環境への負荷の少ない持続可能な社会づくり

### 第3節 霞ヶ浦をはじめとする湖沼環境の保全

- 霞ヶ浦の浄化が進んでおらず、そこにつながる56の河川の整備でさえ遅れているところがある。

## 第4項 快適で質の高い生活環境づくり

### 第2節 生活を支える交通環境の充実

- デマンドタクシーの利用は、その市町村内に限定されており、十分な医療施設を有していない市町村では、近隣施設まで乗り換えて行く必要がある。総合病院を整備するなり、タクシーの利用エリア拡大を考えてほしい。
- 県道であっても歩道のない通学路があるので、歩道を整備してほしい。

## 第5項 地域社会活動の推進と世界に開かれた社会づくり

### 第1節 自主的・主体的な地域社会活動の推進

- 世代間のコミュニケーションが失われつつある。これを放置しておくとも今後様々な問題が生じる恐れがあると思うので、NPOやボランティアの力を活用しながら改善を図ってほしい。
- 住民間でネットワークを構築しても、気軽に会合できる場がない。
- 町内会、自治会がしっかりしていないところがある。それらの活動がしっか

り行われれば、防災、防犯、環境などの問題は改善されるので、県の方で体制基盤がしっかりするように指導してほしい。

- ボランティアについて従事したい人が増えていることを考慮し、県はボランティアを求めている人・組織とのパイプ役になってほしい。
- 上手にボランティアを活用できる体制を築き、ボランティアに関する評価が高い県になってほしい。

### 第3章 人が輝くいばらきづくり

#### 第1項 未来を担う人づくり

##### 第1節 社会全体での教育への取組

- 家庭環境の向上は大切。家庭とのネットワークを構築して、子どもが十分な教育を受けられる基盤を確立してほしい。
- 人づくりは大切なので、まずはこの点に力を入れてほしい。
- 行政と学校、そして各家庭が協力して地域の教育力が高まるような体制を整えてほしい。
- あいさつをはじめ家庭教育の基盤をしっかり構築していく必要がある。

##### 第2節 学力の向上と個性を伸ばす教育の推進

- 人づくりは一番大切なので、教員数を増員してほしい。
- 中高一貫校が増えるのは良いことなので、年次計画で進めてほしい。
- 1クラスの定員数を25名ほどに減らし、学力向上に努めてほしい。

##### 第3節 豊かな心と健康や体力をはぐくむ教育の推進

- 学校教育のなかで、伝統文化に関する教育時間が足りない。この分野に十分な予算を組んでいただき教育回数の増加に努めてほしい。

#### 第4項 学習環境の充実と文化・スポーツの振興

##### 第1節 生涯学習を支援する学びの環境の充実と活用

- 医学知識を高められる勉強会を定期的で開催する体制を整えてほしい。

##### 第2節 文化芸術活動の推進と地域文化の発掘・発信

伝統的な文化・芸能については、しっかり伝承されていくようにしてほしい。

